

静岡

## 市制施行70周年・ サッカーのまち100周年を迎える藤枝市

藤枝市は今年、昭和29年の市制施行から70周年、そして大正13年を起源とする「サッカーのまち」としての歩みも100周年となる記念すべき年を迎えました。

「サッカーのまち」だけでなく、「お茶のまち」、そして「日本遺産のまち」としても知られる藤枝市は、利便性の高い都市機能が集積する中心市街地と、豊かな自然あふれる中山間地域が隣接する「ほどよく都会。ほどよく田舎。」を魅力とし、多くの方に選ばれるまちづくりを進めています。

歴史と伝統を紐解くと、昭和29年に将来への発展を目指して、2町4村（藤枝町・青島町・葉梨村・高洲村・大洲村・稲葉村）が合併し、藤枝市として市制が施行されました。その後、平成21年1月、東海道の宿場町としても栄えてきた岡部町と合併し、現在の市域を形成しています。市制施行以来、交通の要衝として、企業の集積や中心市街地の活性化とともに人口も増加し、静岡県中部の中核的都市として発展しています。

また、「サッカーのまち」としての歩みは、大正13年に志太中学校（現在 藤枝東高校）の初代校長であった錦織兵三郎氏が校技として蹴球（サッカー）を取り入れたことが起源であり、スポーツ少年団活動などの最先端の人材づくりが進み、藤枝東高校は高校サッカー史上初となる三冠獲得をはじめ、数々の栄光の歴史とともに長谷部誠選手など多くの日本代表選手を輩出しています。そして、近年は藤枝順心高校が2年連続史上最多7度目の全国

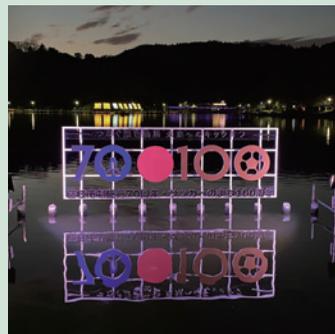
優勝を果たし、女子サッカーの人材づくりも進み、また同市をはじめ「サッカーのまち」の頂点として志太榛原地域4市2町をホームタウンとする藤枝MYFCがJ2リーグで活躍するなど、競技者のみならず年代を問わず多くの市民がサッカーに親しんでおり、「蹴球都市」としてのブランドを冠して、スポーツの枠を超えた市の文化として根付いています。

先人たちがこれまで築き上げた歴史と伝統を尊び大切にするとともに、藤枝市、そして市民の皆さんが次の10年、100年へ新たなスタートを切る契機とするため、市内ではこの一年、「つなぐ藤色物語 未来へのキックオフ」をテーマにさまざまな記念事業を展開しています。

このテーマに込めた想いを発信する記念事業として「市民でつなぐ蹴球都市ネクスト100サッカーリレー」をご紹介します。この記念事業は、市民総参加で将来の夢、これから頑張りたいことなどの想いを込めたサッカーボールのパスを動画でつなぐというものです。動画は市民から募集し、それらを1つにつなぎ合わせ、市のプロモーションや今後開設を予定している特設サッカーミュージアムにて公開される模様です。同市に在住・通学・通勤している方や出身の方、市内に事業所等がある企業など、気軽に参加できる事業として企画されており、両周年が重なるまたとない機会ですので、参加条件を満たされる方はぜひ応募してみてください。いかがでしょうか。



サッカーのまち100周年記念式典の様子



藤枝市のシンボルである蓮華寺池公園に設置された水上サイン